

掲載媒体	日刊薬業 WEB	掲載日	2014.7.29	掲載面	面
------	----------	-----	-----------	-----	---

## 佐野病院・小高氏 RAS遺伝子検査の早期承認を（2014年7月29日）

佐野病院消化器がんセンター外科の小高雅人氏は29日、メルクセローノが都内で開催したプレスセミナーで講演し、RAS遺伝子検査の早期承認の必要性を訴えた。同氏は抗EGFR抗体について、投与対象をKRASだけでなくNRASも含めた「RAS野生型」患者に絞り込むことによる有用性が、複数の臨床試験で示されていると説明。また、RAS変異型の患者では抗EGFR抗体薬の上乗せ効果が期待できないとして、RAS遺伝子検査は患者のベネフィットにつながると強調した。

RAS遺伝子検査試薬は、医学生物学研究所が現在承認申請中。メルクセローノは、アービタックス（一般名＝セツキシマブ）の投与対象を、KRAS野生型からRAS野生型に変更する申請を行っている。



RAS遺伝子検査の有用性を話す小高氏